

説明的文章教材の特性

説明的文章教材の性格

(1) 実用文的なものから科学的なものへ

現在では、内容的に実用文的なものは少なくなり、自然科学だけでなく人文科学、社会科学にもわたる科学的なものが多くなってきています。

(2) 知的関心を呼び起こすように

従来は、読者の興味の惹きやすさから、奇抜な内容をもつもの、珍しさを身上とする新奇な題材を扱ったものなどが多かった傾向がありました。しかし、今では、読者の日常に近い題材を取り上げつつ、通常は気づかない事物の機能や構造、事象・事実の過程や因果関係、意義や価値などを知的関心を呼び起こすように説明したり、解説したりするものが増えてきました。取り上げる題材自体の珍しさよりも、それを明らかにする切り口の角度や解明方法・手順の巧みさや、結論として導かれる意義・価値のあり方などに重点が置かれるようになってきました。

(3) 説明的文章の新しい教材性

最近では、珍しさよりも日常の印象の中の錯覚や盲点を取り上げ、説き明かすものが増えてきました。読者にとって、そこに展開される論理は、価値が見出しやすく、また血肉化しやすいものです。読者にとって、未知であることよりも、断片的、印象的にしかとらえていなかったものの中に、本質を見出すことが実質的な論理的認識の形成につながりやすいと考えられます。

(4) 説明的文章の機能

説明的文章は、本来筆者が文章の内容としているものを、読者に対して説明しているものです。説明的文章の表現と理解は、単なる情報の提供・受容というのではなく、筆者は、読者に対して、情報を用いてある内容を説得しようとしています。また、読者はそれを精一杯受け止めて、納得しようとしています。

この納得は、単なる受け止めという浅い意味ではなく、十分な吟味を経て、ある一定の深まり、広がり確保していくという奥行きのあるものです。

(5) 小学校説明的文章教材との相違

同じ環境教材でも小学校説明的文章教材の場合は、読者を保護する意識のような論調の柔らかさを感じさせます。一方、中学校説明的文章教材の場合は、問題状況に即して、読者をその問題の当事者として、解決の方法・方向を要求しているものもあります。

説明的文章を読む理由

説明的文章は、優れた知識や情報を、読み手にわからせようという書き手が、事実や事柄を通して自分の見解を述べる文章です。

ある事柄について、よく知っている表現者（筆者）が、そのことを全く知らない、よくは知らない相手（読み手）に対して、事柄を整理し、順序立ててわかりやすく説き明かしたり、また表現者（筆者）の主張を、相手（読み手）に対して説得する文章です。

読者は、そこからこれまでの自分にはなかった優れた知識・情報を得ることができます。そして、それらの知識・情報は、私たちの生活に役立ち、新しい生活を考えさせてくれます。